

ため池の改修

ため池は築造から年月がたつと老朽化や土砂の堆積などにより改修が必要になります。水不足の対策としてため池の貯水量を増やすために改修工事を行うこともあります。香川県の岩瀬池と愛媛県の犬塚池の例をご紹介します。

■岩瀬池の改修（香川県三豊市）

高瀬町（現三豊市）の岩瀬池が築造されたのは文禄元年（1592）でした。築造以来、岩瀬池の底には長い年月の間に土砂が堆積し、池の広さの割には貯える水の量が多くありませんでした。人々は毎年、水不足と古くなった池の修理に悩まされていました。このため、昭和10年（1935）にため池の改修のため岩瀬池耕地整理組合が組織され、県営事業により承水溝改修に着手（昭和12年竣工）、昭和17年には堤塘の嵩上げに着手（昭和20年竣工）、引き続き幹線水路の改修等の大工事が行われました。岩瀬池の堤防に立つ改修記念碑には、この改修工事により干害が除かれたため豊穰が約束されて歓声が山野にみなぎったこと、真鍋申三郎が終始一貫組合長として寝食を忘れて奔走したことなどが記されています。

<香川県教育会編「さぬき・人・ここにあり」2013年、岩瀬池の改修記念碑など>



岩瀬池

copyright©2013 西国災害アーカイブス



岩瀬池の改修記念碑



(地理院地図に加筆)

■犬塚池の改修（愛媛県今治市）

玉川町（現今治市）の犬塚池は文化14年（1817）に築造されました。犬塚池では、昭和9年（1934）の大干ばつを契機として、犬塚池改修工事組合が結成され、池水掛りの立花、清水、富田、鴨部の四ヵ村あげて改修運動を進めた結果、県営施行で干害応急対策事業が行われることになりました。昭和10年から12年にかけて、水不足を解消するため、本堤、副堤2ヶ所の嵩上げ工事、水源地から導水するコンクリート水路の開設工事、用水路の整備が行われ、改修後に貯水量が従前の3倍になりました。改修工事はすべて関係農家の出役によるもので、当時の工事写真には、男はトロッコで土運び、女は割烹着に姉さん被りで亥の子搦き（いのこづき）という光景が映されています。<愛媛県土地改良事業団体連合会編「愛媛の土地改良史」1986年>



犬塚池

copyright©2013 西国災害アーカイブス



犬塚樋

copyright©2013 西国災害アーカイブス



(地理院地図に加筆)